

11/20

総務文教委員会
市長に政策提言書を手渡す

政策課題

富士宮市の公共交通の確保について

市への政策提言書内容(抜粋)

- 1 宮タクの内房エリア及び北部エリアから乗り換えることなく、中心市街地まで行けるよう検討すること。
- 2 利用者の多い地域については、積極的に増便を検討すること。
- 3 タクシー協会と協働し、スマートフォンなど端末機器による予約可能なシステムの導入を検討すること。
- 4 運転免許証返納者に、宮タク会員登録への推奨を行い、さらなる新規利用者の獲得を図ること。
- 5 利用方法など改善・変更した場合は、新聞広告や地元説明会などを行い、利用者への周知を図ること。

提言書を受けての市長の対応

市(市長)は当提言書を受け、「非常に良い提言をいただいた。市当局としても前向きに検討していきたい。」との発言がありました。

今後の宮タクに期待しましょう。



提言書提出の背景

総務文教委員会は、令和元年7月に「富士宮市の公共交通の確保について」を政策課題に掲げ、約1年4カ月の間、積極的かつ精力的に調査を行ってきました。

近年、公共交通を取り巻く環境は、厳しさを増しており交通事業者においては、運転者不足、保有車両の老朽化など課題が山積しています。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が、追い打ちをかける形となり、これまで以上に持続可能な安定した経営が、困難になると予想されます。

今後、高齢化が進み、一人暮らしの高齢者がさらに増加することが予想される中において、生活の足を確保することが容易ではない地域や状況が考えられます。このような生活弱者の足として「宮タク」は、非常に有効な交通施策の一つであると考えます。また、ICTを推進することにより、正確なデータ分析を行い、利用傾向や利用者の年齢層など、現状を正確に把握することが必要でもあると考えられます。

そこで、タクシー協会と連携し宮タクの利便性をさらに高め、利用促進につなげるために今回、令和3年度予算編成に間に合うよう11月20日に政策提言書を市に提出しました。



課題分析実績

委員会開催…12回
勉強会開催…2回
視察開催……1回